

かけはし

— 小だより

No. 13 25・3・28

おわること

校長 大村 亨夫

去る3月。覚悟していた別れと不意の別れ。3月は慌ただしく過ぎて行きます。卒業生とも、異動なさる先生方とも、もっと何か話せたのではないかと思ひながら雪解けの景色を眺めています。

6年生には、詩人谷川俊太郎の《とき》という詩の一節をはなむけの言葉にしました。〈とけいはとまることがあっても ときはとまることがない。〉でこの詩は始まり、最後はこんな言葉で終わっています。〈きのうときょうは よく にているけれど、おなじではない。そして、あすは いつでも あたらしい。〉

私達は、1日24時間という平等な毎日の中で暮らしています。けれど、昨日と今日をちょっと違わせてみることは、子どもも大人も大切なことだと思います。特に、成長著しい子ども達は、昨日より少しだけがんばることや工夫をしてみることで、変化や進歩を実感できます。その変化が成功に結び付けば自信が生まれてきます。「俺ってやれる！」という気づきが、生きていくエンジンに点火させるのだと私は考えています。

夢を持つこと、語ることは大切です。しかし、その先にある〈夢を叶える事〉との間には、大きな距離があることも現実です。私達は、夢をあきらめ、捨てながら大きくなってきたのかも知れません。だからこそ、子ども達には言いたいのです。「夢の実現は簡単じゃないかもしれないけれど、あきらめないこと。努力し続ける姿勢を持ちつづけること。」

なぜならばそれが、明日へと歩みを進めるエネルギーになるからです。これが、今年度の卒業生に向けたメッセージでした。

さて、「かけはし」も今年度最終号になりました。お別れはかぐや姫で締めます。

思い返してみると、私が別れのほろ苦さや、切なさを知ったのは「竹取物語(かぐや姫伝説)」が初めてだったように思います。

田舎にも都会にもある月。神社の上をビルの谷間を、人々は時々ため息をつきながら見上げることがあります。満月の夜。無意識のうちに、私達は「かぐや姫」を感じている……。と言ったらおおげさでしょうか。

この伝説、かぐや姫が残していった不老不死の薬を不死山(富士山)に捨ててしまうところで終わります。小さい頃はくここが、どうもわからんと謎でした。

しかし、大人になるにつれて、永遠を手に入れる薬と決別したことの意味がわかるようになってきました。終わることの大切さに気づいたと言えるでしょうか。私達は、出会いと別れの繰り返しの中で生きてきました。「さよなら」を何度も言ったし、永遠の別れも幾度か経験しました。これらの終止符はく終わりがあるからこそ、今を大切に生きる。人をいとおしむ。〉ということを教えてくれたように思います。(愚かにも、失ってからわかったことも数多く、悔いは胸の奥にひりひりと詰まっていますが。)

今日は、子ども達と先生方のお別れ式。第一小を去られる先生方に感謝を申し上げると共に、あたらしい職場で真新しいスタートラインに立たれ、はり切ってスタートなさることを願っています。

最後になりました。1年間ご愛読くださいましてありがとうございました。



満開の敬翁桜 (アグリメントなか 様 より)

学校のまど ~子ども達のがんばり~

6年間1日も休まず登校 素晴らしい!

6年男子 3名

1年間1日も休まず登校	計	61名	36%
1年生	7人	28%	
2年生	6人	22%	
3年生	6人	25%	
4年生	8人	28%	
5年生	11人	41%	
6年生	23人	64%	

祝 新しい明日へ向かって 第42回卒業式



おごそかに にこやかに 晴れ晴れと

在校生も心を込めて

3月あれこれ



4月当初の予定

- 5日(金) 新6年生のみ入学式準備
9:00~11:30
- 8日(月) 普通登校 始業式
新任披露式 入学式

- 9日(火) 校外子ども会・下校指導
- 10日(水) 2年以上給食開始
- 12日(金) 交通教室
- 15日(月) 1年生給食開始